令和７年６月吉日

令和７年度「高校生１日体験授業」要項

１．事業概要

富山大学教育学部（旧：人間発達科学部）におきましては、富山県の教員養成に尽力し、多くの教員を教育現場に送り出して参りました。教員を養成する学部として一定の評価を頂いていると存じます。

一方で、本学部に何を専門とする教員がいるのか、大学ではどのような学修が提供されているのか、といった具体的な内容は、高校生のみなさんに伝える機会がありませんでした。

そこで、令和２年度より「高校生向けの１日体験授業」を開催しております。本体験授業では、大学での授業内容を高校生向けにアレンジし、時間を調整して１コマ５０分で実施いたします。授業は、理系分野、文系分野、実技分野様々な授業が開講され、参加者は自由に選択して授業に参加できます。希望者には、現役大学生との相談会、受講後の振り返り作成（各校から希望がある場合）を用意しています。

本学部では、様々な専門の教員が授業を担当しております。本体験授業でもそれを反映したものとなっており、幅広い分野で社会との関わりを築く授業を展開しておりますので、奮ってご参加ください。

２．日時／会場

（日時）令和７年８月８日（金）　午前１０時～午後４時（受付開始は午前９時３０分）

（場所）富山大学五福キャンパス　共通教育棟

※市電・市バスにて（富山駅から約１５分「富山大学前」下車）

※共通教育棟は、正門から入って 100m ほど進み右側の建物です（「８．場所」を参照ください)。

３．参加資格

高校２年生、高校３年生（希望があれば、高校１年生の参加も可能です）

※参加費は無料ですが、本学までは各自でお越しください。

４．申込み先・連絡先

参加申し込みは各高校で取りまとめの上、下記問い合わせ先までメールにて「高校生１日体験授業事前申込書（Excel)」をご提出ください。実施要項および申込書は、本学部 HP（News 欄）からもダウンロードいただけます。

その他、ご不明点などございましたらお気軽にお問い合わせください。

（お問い合わせ先）
人社系学務課（教育学部事務室：堤）
TEL: 076-445-6258
E-mail: kyominfo@adm.u-toyama.ac.jp

５．時間割

同時並行で授業が開講されます。参加者は、希望する授業を選択して受講できます（当日受講する授業を変更できますが、調整のため事前申し込みをお願いいたします）。

	A 会場（C12）	B 会場（C13）	C 会場（C21）	D 会場（C22）
10:00~ 10:10	諸注意	諸注意	諸注意	諸注意
1 限目 10:10~ 11:00	体験授業① （和田　充紀/特別支援教育） **子どもの“いまとこれから”を支える学校教育に期待されること**	体験授業② （木下　豪/教育行政学） **教師の「子どもと向き合わない時間」を考える**	体験授業③ （若山 育代/幼児教育） **乳幼児教育における「遊びを通しての総合的な指導」について学ぼう**	体験授業④ （持田　洸/特別活動論・教育方法学） **理想の学校ってなんだろう？：自由の２つの側面–「消極的自由」と「積極的自由」–から考える**
2 限目 11:10~ 12:00	体験授業⑤ （山口　範和/解析学（偏微分方程式論），数学解析） **現象の数学解析 ―微分方程式と数理モデル―**	体験授業⑥ （月僧 秀弥/理科教育学） **科学リテラシーを考える－なぜ理科を学ぶのか**	体験授業⑦ （小木曽　智子/英語科教育学） **未来の先生と学ぼう！―英語が「わかる・伝わる」勉強と教え方のひみつ**	体験授業⑧ （西田谷 洋/日本近代文学） **エコーとユーモア―村上春樹「バースデイ・ガール」を読み解く**
昼食 休憩 12:00~ 13:00	昼　食 先輩（富山大学教育学部生）へなんでも聞いてみよう（自由参加）			

	A 会場（C12）	B 会場（C13）	C 会場（C21）	D 会場（C22）
13:00~ 13:10	教室移動			
3 限目 13:10~ 14:00	体験授業⑨ （成行　泰裕/物理学・物理教育） **「理科」の物理について考えよう**	体験授業⑩ （有川　貴子/美術教育学） **美術教育とファシリテーション：生活の中の「美術」とつながる、広がる楽しみ**	体験授業⑪ （多賀 秀紀/音楽教育学） **音楽の授業で学ぶこと－文化の「継承」や「理解」とは**	体験授業⑫ （徳橋　曜/西洋史学） **「中世ヨーロッパ」はどんな世界か：歴史学にできること**
4 限目 14:10~ 15:00~	体験授業⑬ （神野 賢治/体育・スポーツ社会学） **運動会は“オワコン”なのか？―これからの体育をデザインする―**	体験授業⑭ （宮崎 光明/学校臨床心理学） **学校の中のマイノリティ―発達障害，不登校，外国にルーツ，LGBTQ+，貧困，ギフテッド，ヤングケアラー，色覚多様，宗教 etc.―**	体験授業⑮ （藤本　孝子/食物学） **「食べるってなんだろう？ 栄養・おいしさ・健康を考える」**	体験授業⑯ （近藤 龍彰/発達臨床心理学） **私たちはどうやって覚えるのか？記憶のメカニズム探求**
15:00~ 16:00	振り返りシート作成 先輩（富山大学教育学部生）へなんでも聞いてみよう（自由参加）			

6．注意事項

・当日参加も可能ですが、教室調整のため、参加希望者は、可能な限り事前申し込みをお願いいたします。
・当日は、受付にて出席確認をお願いいたします。確認後、受付で受講票等の資料を配付いたします（授業に参加するのに必要です）。
・当日、万一体調がすぐれない場合、ご自宅でお休みください（欠席のご連絡は不要です）。
・座席は自由です。受講する授業の教室を確認して、開始 5 分前には、着席してください。
・希望者には、現役大学生への相談会、授業終了後の「ふりかえり」作成（学校依頼があった場合）を用意しています。（個別の対応はご相談ください）。作成した「ふりかえり」は後日、所属校へ共有させていただきます。
・大学側では、受付（自己申告による出席確認）、体調不良時の対処、校内の道案内などの業務はいたしますが、スタッフが限られているため、十全な対応ができないことがあります。
・当日は高温になることが予想されます。熱中症対策としてこまめな水分補給をお願いいたします。学内に自販機も設置してありますが、数に限りがありますので、飲み物もあらかじめご準備いただきますようお願いいたします。
・当日は昼食持参でご参加ください（昼食時は講義室で飲食可能です）。また、徒歩 5 分圏内にコンビニやドラックストアがありますので、ご案内は可能です。

７．授業内容一覧

体験授業①

子どもの“いまとこれから”を支える学校教育に期待されること　（和田　充紀/特別支援教育）

全ての人には安心して生活をする権利があります。安心して学ぶ権利や安心して活動に参加する権利もあります。

子どもたちが小学校や中学校・高等学校等の学校生活を過ごす中で、授業に参加をしたり、話を聞いたり、発表をしたり、テストを受けたり、休み時間に友達と話したり、ひとりで静かに過ごしたりすることが、当たり前のこととして、誰もが安心して行えるようになるために、学校教育にはどのようなことが求められるでしょうか。

体験授業では、「子どもの“いまとこれから”を支える学校教育に期待されること」をテーマとして、様々な子どもたちの実態を知るための疑似体験やグループワークを行い、学校生活における「安心につながる環境」や「安心のために必要な周囲の理解や対応」について考えます。

体験授業②

教師の「子どもと向き合わない時間」を考える　（木下　豪/教育行政学）

近年、日本の教師の長時間労働が問題化され、教師の「働き方改革」が進んでいます。「働き方改革」は、教師のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになることを目的としています。こうした改革のスローガンとなっている言葉が、「子どもと向き合う時間の確保」です。

もちろん、教科指導や生徒指導を主たる業務とする教師の「子どもと向き合う時間」を確保することは、きわめて重要です。しかし、教師が多忙化してきたのは、むしろ「子どもと向き合う時間」が長くなってきたからだという指摘もあります。また、こうした中で安易に「子どもと向き合わない時間」をなんでも削減することは、教師の「働き方改革」が目指す子どもたちに対する効果的な教育活動に繋がるのでしょうか。

本授業では、教育政策・教育行政の展開や学術的知見を踏まえて、これからの教師の「働き方」を皆さんと一緒に考えます。

体験授業③

乳幼児教育における「遊びを通しての総合的な指導」について学ぼう　（若山 育代/幼児教育）

この授業の目標は、乳幼児教育の指導方法である「遊びを通しての総合的な指導」について理解することです。遊びには、乳幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれています。例えば、砂場遊びでは、砂が水を含むと固形状になり、さらには、液状になることを子どもは発見します。その発見に応じて、子どもは砂との異なった関わり方も発見しています。このような過程で、乳幼児は、達成感、充実感、満足感、ときには挫折感や葛藤などを味わい、心身ともに成長していきます。本授業では、小学校以上の子どもが受けるような授業を受けた幼児の発達がどのようなものになるかの調査結果を紹介し「遊びを通しての総合的な指導」が乳幼児に適切であることを説明したり、実際に手を動かして乳幼児の遊びを体験したりなどします。一緒に「遊びを通しての総合的な指導」の理解を深めていきましょう。

体験授業④

理想の学校ってなんだろう？：自由の２つの側面－「消極的自由」と「積極的自由」－から考える

（持田　洸/特別活動論・教育方法学）

朝から夕方まで規則正しく詰められた時間割、机に向かって座ったまま受け続ける授業、何のためにあるのか分からない校則、圧の強い教師、息苦しさを感じる友達関係…。皆さんは、学校に窮屈さを感じたことはありませんか？そのような窮屈さから解放された、自由な学校が良いと思ったことはありませんか？もちろん、そんな学校生活の中でも楽しいと感じていることや、意味があると感じていることもあると思います。良いものは残しつつ、より自由な学校というものに憧れを抱いたことはないでしょうか。本授業では、このような「理想の学校」について考えてみたいと思います。

このことについて考える際、本授業では「自由」の２つの側面－「消極的自由」と「積極的自由」－を鍵概念として取り扱います。本当の意味で自由になるとはどういうことなのか。そしてそうなるために、教育は、学校は、どのようにあるべきなのか。さらに言えば、今の学校でできることは何なのか。「自由」というキーワードから、理想の学校について一緒に考えてみましょう。

体験授業⑤

現象の数学解析 ―微分方程式と数理モデル―　（山口　範和/解析学（偏微分方程式論），数学解析）

明日や１年後の未来に何が起こるのかを知っていたら…そんな妄想を，誰もが少なからずしたことがあるのではないでしょうか。未来に何が起こるのか，確実なことは誰にも分かりません。しかし，地震や感染症拡大，気候変動などを予測できれば，それらに備えることが出来ます。

では，どのように未来を予測するのでしょうか？その答えの一つが，**数理モデル**の利用です。数理モデルとは，実際の現象の本質を抽出した，現象の数学的な表現（法則）です。多くの現象では，その数理モデルとして**微分方程式**が自然に現れます。

本講義では，自然現象を微分方程式で表現し，その解析を通して未来を予測・分析をする**現象の数学解析**のアプローチを紹介します。題材としては「人口の推移」という身近でわかりやすいトピックを取り上げ，18 世紀のイギリスの経済学者トーマス・マルサスが提唱した『人口論』を出発点に，数理モデルの立て方，離散的な考え方（漸化式）から連続的な考え方（微分方程式）への移行，モデルの説明力やモデルの修正，数理モデリングの思考サイクルといった，微分方程式論の入門に相当する内容を学びます。

もし時間が許せば，発展的な話題として，サメ（捕食者）とイワシ（被食者）の関係，コロナウイルスのような感染症の拡大，さらには熱帯魚の体表に現れるパターン形成など，微分方程式の応用例をいくつか紹介します。

高等学校で学習する数列や微分・積分が「未来を予測する道具」としてどのように使われるのかを，きっと実感できるはずです。

体験授業⑥

科学リテラシーを考える－なぜ理科を学ぶのか　（月僧 秀弥/理科教育学）

皆さんは小学校３年生から高等学校３年生まで理科を学びます。学校で生物や地学、物理や化学など様々な科学（サイエンス）を学んできていると思います。この講義では、このような理科の知識や考え方が生活の中でどのように活かされていることを学ぶことで、なぜ理科を学ぶのか、将来理科的な知識をどのように活用できるかを考えていきます。リテラシーとはもともとは読み書き能力のことをいいますが、広義ではその背景にある文化全体の理解能力のことです。その言葉に、科学を組み合わせた「科学リテラシー」は科学の知識や考え方を身に付けることで、身のまわりのものを正しく考えたり判断したりする力を指します。皆さんはこれまで学校の理科授業を通じてきっと科学リテラシーを身に付けてきました。

この講義では、皆さんの身に付けた科学リテラシーを活用し、身のまわりにあるものや情報を確認します。皆さんの周りには一見科学を使い正しく説明しているようでも、正しくないことを科学の用語を使って説明されていることがあります。どのように科学リテラシーを使うことで正しく判断できるのでしょうか。一緒に考えていきましょう。

体験授業⑦

未来の先生と学ぼう！―英語が「わかる・伝わる」勉強と教え方のひみつ(小木曽　智子/英語科教育学)

この授業は、英語や英語の教え方に興味のある高校生を対象に実施します。授業は二部構成です。

第 1 部では、「どうすれば英語が上達するのか？」「どんな勉強法が効果的なのか？」について考えます。英語を学ぶときに私たちの頭の中で何が起きているのかを、最新の研究に基づいてやさしく紹介します。日頃の英語学習を見直すヒントが見つかるかもしれません。

第 2 部では、英語教師をめざす大学生によるミニ授業を体験していただきます。英語を「勉強する」のではなく、実際に「使ってみる」活動や、英語を使ったやりとりを通して「わかる」「話せる」につながる授業とはどんなものか、一緒に考えてみましょう。

※**授業の一部は英語で行います**が、サポートがありますので安心してご参加ください。

体験授業⑧

エコーとユーモア―村上春樹「バースデイ・ガール」を読み解く　（西田谷 洋/日本近代文学）

村上春樹の短編「バースデイ・ガール」を題材に、物語の時間表現と話法がもたらす「エコー」と「ユーモア」を学びます。物語は、20 歳の誕生日を迎えた「彼女」が老人に願いを語る場面と、10 年以上後の「僕」との対話を通じて展開します。過去形と現在形（タ形・ル形）の混交や、直接・間接話法が織りなす「置換された直接性」を探り、彼女の願いの両義性（肯定と否定）を読み解きます。特に、彼女と老人の会話に見られる「エコー発話」が、ユーモアやアイロニーを生み、物語の虚構性をどう構築するかを分析します。授業では、テキストの一部を読み、会話の「エコー」について受講生で話し合い、言葉の反復が感情や意図を変えるか変えないのかを考えてもらいます。物語の言葉が現実と想像をどうつなぐか、ユーモアの裏に隠れた人生の選択を一緒に考えましょう。

体験授業⑨

「理科」の物理について考えよう　（成行　泰裕/物理学・物理教育）

みなさんは、物理についてどんなイメージを持っていますか？難しそうなイメージでしょうか？小学校の教員や中学校の理科教員に興味がある人でも、物理に不安や苦手意識がある人は珍しくないかもしれません。

物理が苦手になるとしたら、その理由は何でしょうか？数式がたくさん出てくることが嫌な人がいるかもしれませんし、内容に興味が持てない人もいるかもしれません。この授業では、「理科」の物理について考えます。物理が得意な人も苦手な人も、それぞれの視点からより深く学ぶためのヒントを是非見つけてください。

体験授業⑩

美術教育とファシリテーション：生活の中の「美術」とつながる、広がる楽しみ

（有川　貴子/美術教育学）

皆さんはこれまでに、図画工作科（小学校）や美術科（中学校・高等学校は選択科目の場合も）を通して、美術教育を学んで来られたことと思います。かいたりつくったりすることが得意でないと思っている人にとっては、「美術」と聞くとちょっと難しそうだとか、普段の自分の生活とは縁遠いものだと感じられるかも知れません。でも本当は、皆さんの生活の中にはたくさんの「美術」が息づいています。

また美術教育は、かいたりつくったりすることだけが目的ではありません。皆さんの生活の中の形や色、そこから生まれるイメージと楽しく関わって、自分の世界を広げていくことも大切に考えられています。生活の中にある「美術」やそれに関わる人と子どもたちをつなぐこと（ファシリテーション）も、教師の大切な役割となっています。

今回は和菓子やプラモデル、プロレスマスク、ファッションと、小学校での図画工作科の学びをつないだ例を取り上げ、簡単なワークショップも行います。生活の中にある「美術」とつながり、自分の世界を広げる学びを楽しみ、そのよさについて考えてみましょう。

体験授業⑪

音楽の授業で学ぶこと－文化の「継承」や「理解」とは　（多賀 秀紀/音楽教育学）

皆さんは，小学校から中学校(選択した場合は高等学校)にかけての音楽の授業で、教科書などに掲載されている既存の作品を演奏したり、あるいは鑑賞したりしてきたことと思います。こうした活動は文化の「継承」、あるいは「理解」ということができます。しかし、どういった文化を「継承」したり、「理解」の対象とすべきなのでしょうか。また，なぜ文化を「継承」したり、「理解」したりする必要があるのでしょうか。

この講義では、こうした問いに根ざしつつ、教科書に掲載されている楽曲(教材)を取り上げながら、学校で音楽を学ぶ意義について考えます。

体験授業⑫

「中世ヨーロッパ」はどんな世界か：歴史学にできること　（徳橋　曜/西洋史学）

小学校から高校の現在にいたるまで、皆さんは学校の授業の中で富山や日本全体や世界の歴史に触れてきたでしょう。高校までの授業で皆さんが接する「歴史」は、「歴史学」ではなく「歴史学の成果としての歴史認識」とでも言うべきものです。では本来の歴史学とはどんな学問なのか、何ができて何ができないのか。「中世ヨーロッパ」という世界のイメージがどのようにできているかを具体的に検討しながら、歴史学にできること、そして学校教育で歴史を学ばせる意味を考えてみましょう。

体験授業⑬

運動会は“オワコン”なのか？―これからの体育をデザインする―（神野 賢治/体育・スポーツ社会学）

かつては学校生活のハイライトだった「運動会」ですが、近年では、「昭和的で時代遅れ」「意味がわからない」「準備が大変」といった声も多く聞かれるようになりました。SNS 上では「オワコン（＝終わったコンテンツ）」という言葉が飛び交い、その存在意義そのものが問われています。

では、運動会は本当にもう必要ないのでしょうか。あるいは、現代の子どもたちや社会の価値観に合った「新しいかたち」へと再構築する意味はあるのでしょうか。

この体験授業では、体育・スポーツの視点から、運動会の歴史や教育的な役割を学びながら、「何のために行うのか」「これからの運動会はどうあるべきか」といった問いを、皆さん自身の視点で深く掘り下げていきます。ディスカッションを通じて、現代に求められる多様性の尊重やウェルビーイングといった観点にも触れつつ、「自分たちだったらこんな運動会をつくりたい！」という企画提案にもチャレンジしていただきます。

身体活動と集団性の関係、競争・協調・表現の教育的価値について考えてみましょう。

体験授業⑭

学校の中のマイノリティ―発達障害，不登校，外国にルーツ，LGBTQ＋，貧困，ギフテッド，ヤングケアラー，色覚多様，宗教　etc.―　（宮崎 光明/学校臨床心理学）

私たちが過ごす「学校」という空間には、実はさまざまな背景や特性をもつ児童生徒が共に学んでいます。発達障害、不登校、外国にルーツをもつ生徒、LGBTQ＋、経済的困難、ギフテッド、ヤングケアラー、色覚の多様性、宗教など、一見見えにくい「マイノリティ」は、身近なところで一緒に生活しています。

本授業では、こうした多様な立場にある児童生徒たちの存在に「気づくこと」から始め、その背景や困難、そして可能性についてともに考えます。

「気づくこと」は，他者への思いやりの土台となり，共に生きる社会をつくる第一歩となります。そして、こうした多様性を見渡したとき、それは「一部の特別な人」ではなく、私たち一人ひとりが抱える個性や事情の延長であると気づくでしょう。もはや「マイノリティ」は少数派ではなく、「マイノリティ」すべてを合わせれば「マジョリティ（多数派）」なのです。

この授業を受けた一人ひとりが，そのまなざしを変え、やさしさと行動につながるきっかけとなることを願っています。さらに，その先の支援のあり方や，多様性を土台とした学級づくりについても，ここ富山大学で共に学んでいきましょう。

体験授業⑮

「食べるってなんだろう？ 栄養・おいしさ・健康を考える」　（藤本　孝子/食物学）

私たちは毎日、「食べる」という行動を繰り返しています。では、なぜ私たちは毎日食事をとるのでしょうか？その理由を改めて考えたことはありますか。

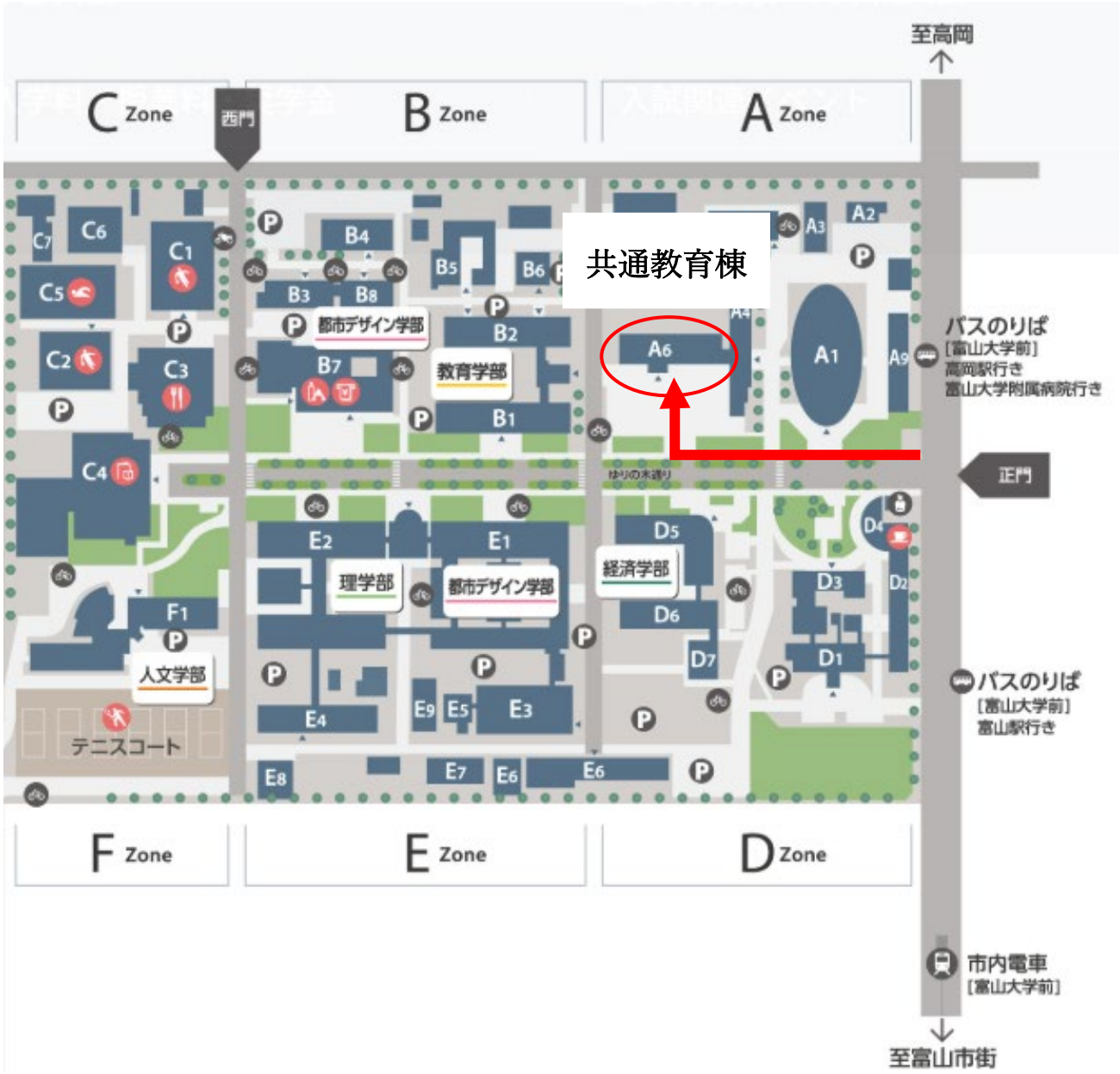
私たちが口にする食品には、さまざまな成分が含まれており、それぞれが体にとって重要な役割を果たしています。では、その成分とはどのようなものでしょうか？また、「バランスのよい食事」とは、具体的にどのようなことを指すのでしょうか？

食べ物には、大きく分けて三つの機能があるといわれています。一つ目は、私たちの体に必要な栄養素を供給する「一次機能」。二つ目は、食事に楽しさや満足感をもたらす「二次機能」。そして三つ目は、健康の維持や病気の予防に役立つ「三次機能」です。この授業では、それぞれの機能について概観し、食品成分と健康との深い関わりについて理解を深めていきます。そして、「バランスよく食べる」とは何を意味するのか、一緒に考えてみましょう。

体験授業⑯

私たちはどうやって覚えるのか？記憶のメカニズム探求　（近藤 龍彰/発達臨床心理学）

本授業は、心理学に興味のある方に向けて実施します。心理学の中の重要なテーマの１つに「記憶」があります。私たちはどのようにして物事を覚えるのか、そしてなぜ忘れるのか、について、様々なメカニズムが考えられています。簡単な心理学実験を通して、自分はどれだけ覚えられるのか、どうやったらうまく覚えることができるのか、あるいはどうやったら忘れないようになるのか、といったことを体験し、学んでもらえればと思います。

授業の中では、近くにいた人と簡単なグループワークをしてもらう予定です。また、実際の心理学のデータ収集はどのようなものかについても、体験してもらえればと思います。

8．場所（富山大学五福キャンパス　共通教育棟）